

## 「3.11語り継ぐつどい」

第1回支部・分会代表者会議に引き続き、開催しました。震災当時も同校に勤務されていた大船渡東高校分会の鈴木正夫さんからのお話と、紫波総合高校分会（当時釜石商工高校分会）の三浦仁美さんからのメッセージが紹介されました。8年が経過しても語り尽くせない思いと、8年が経過してやっと語り始めることができた思いを、参加者一同が受け止めました。施設・設備の建設はすすんでいても、なかなか人が戻ってこないことによる課題は残されています。被災した人たちの気持ちに寄り添いながら復興に向かう決意を新たに「つどい」でした。



### 大船渡東高校分会 鈴木 正夫さん

震災当時も大船渡東高校に勤務していた。経験したことのない大きな揺れのためすぐに停電になり、その後部活動などで登校していた子どもたち全員をグラウンドに集めた。東高校は旧大船渡農業高校だった萱中校舎があったので自家発電機を調達できた。また、アマチュア無線をしている人がいたので、停電の中でも情報を得ることができ幸運だった。自宅が陸前高田にあり、その夜に山道を抜けて何とか陸前高田に着いた。灯りが何もなくて町中が真っ暗だったが、家の玄関に貼ってあった家族の手紙により無事を確認できた。その後は学校に戻り、教職員で手分けして子どもたちの安否確認をした。亡くなった子どもたちのことを思うと胸が痛い。学校再開まで教職員全員が力を合わせて活動した。全国から警察や自衛隊が支援に来てくれた。東高校の前には国道45号線が通っていて、多くの支援車両が通っていった。萱中校舎が自衛隊の宿営地になったこともあり、感謝の気持ちでそれを眺めていたが、自分も何か出来ないかと思い、捜索犬を育て、試験に合格して活動できた。少しは地元のためになったのかなと思う。

### 紫波総合高校分会（当時釜石商工高校分会） 三浦 仁美さん

今日は三陸鉄道全線開通の日。しばらくはたくさんの人で賑わうだろうが、それも一時のことで、また人のいない空き地だらけの沿岸の風景に戻ってしまうのだろう。悲観的だろうか。6年前に就職試験を受ける3年生の面接練習をした。気になるニュースとして「東京オリンピック開催」をあげた子どもに思わず「被災地の復興がまだなのにオリンピックで浮かれている場合ではない。被災地の人間でなければ言えないことがあるだろう。」と言っていた。昨年新人戦の引率で久しぶりに沿岸を訪れた。車でも浸水地域を通過するときは足がすくむ。仮設住宅は古ぼけていて人の気配がなかったが、一軒だけ洗濯物を干しているところがあった。洗濯物が風に揺られている様を見ながら、8年間の生活が想像され思わず涙が出た。沿岸の子どもたちは幼い頃から自衛隊の仕事は人命救助だと思って育った。自衛官を志した子どももいる。自衛隊が戦争に行くことにならないように、そう強く思っている。